

調査研究協力校の実践

1 児童生徒による授業評価を 生かした授業の工夫改善



「教室は生徒を教えながら、教師である私も生徒に教えられながら、生徒が進むとともに、私もその日、何らかの意味で教師として成長する、そういう場所であればならないと思います。そういう教師の成長ということのない教室というのは、いろいろ骨を折ってみても、結局、生きた教室にはならないでしょう。教師である私が何も成長しないで止まっているのに、子供たちだけを成長させるというわけにはいきらないと思います。」¹

¹ 大村はま 著「教えながら 教えられながら」の一節

事例1 子どもと共に作る授業を目指して

【小学校】子どもによる授業評価を生かして、子どもとのコミュニケーションを図り、児童も教師も積極的に授業に取り組んでいます。教員一人一人が子どもたちの声を授業の改善に生かすことで、子どもたちも自分の声を先生が取りあげてくれたと実感しています。

この小学校では、今年度の学校課題を、「自分の考えを伝え合うことのできる児童の育成 ～よく聞き、よく読む力を伸ばす指導方法の工夫～」とし、主として国語科の授業研究を通して、児童の授業評価も取り入れ、研究を進めています。

児童による授業評価を実施するのに先立って、7月に、「児童による授業評価」に関する職員の意識調査を行いました。そこからは、「授業改善を図れる」、「児童生徒の教材、単元への興味関心、理解の有無を把握できる」、「よい授業を心がける」等の効果を期待しつつも、実施にあたっては、「(小学生には)評価能力に疑問がある」、「評価する時間の確保が難しい」等の課題を感じていることが分かりました。学習指導主任は、10月の校内研究授業の際に、思い切って児童による授業評価の実施を呼びかけました。

先生と子どもたちが一緒になって授業を作っていくためにも、児童による授業評価を実施してみませんか？ 授業について、きっと子どもたちから教わることがあるかもしれませんよ。児童理解のためにも、まずはやってみましょう。



低学年の子どもに評価ができるのかしら。

授業中に、評価の時間を確保するのは難しいね。

また、仕事が増えるな。

教師批判にならないか、心配だわ。



このような中、10月には、低・中・高学年ブロック毎の校内研究授業を行い、授業後に児童による授業評価を行うことにしました。職員のコンセンサスが得られないままのスタートでした。

1 質問による授業評価(低学年の授業評価への試み)

質問紙による授業評価は、低学年の児童にとって、記入に時間がかかり、評価する時間の確保が難しいことが予測されました。そこで、1学年担任のA教諭は、授業についての児童の声を拾い上げる手段として、教師が質問項目を読み上げ、挙手をしてもらうという方法を取り入れてみました。

児童に尋ねた項目は、次のとおりです。

先生の教え方は、よく分かりましたか？

- 1 黒板の文字は大きくて、見やすく書かれていましたか。
- 2 先生の声はよく聞こえましたか。
- 3 先生の説明は分かりましたか。
- 4 黒板は見やすかったですか。
- 5 机なしでグループ練習しましたが、やりやすかったですか。
- 6 グループの発表をビデオ撮影したことでやる気が出ましたか。

先生の教え方についてみんなの声を聞かせてね。みんなからの意見をもらって、もっともっといい授業をしていきたいの。だから、思ったとおりに答えてください。



A教諭は、この質問に対する児童の回答から、板書や発問・説明等はおおむね良好である一方、文字が小さいと感じている児童もいることが確認できました。すべての項目に「良くなかった」と回答している児童がいることにも気付きました。

自由記述もさせたところ、半数の児童は自分自身の学習の反省を書いてしまいました。しかし、その後、二度、三度と授業評価を重ねて実施していくうちに、下記のような、教師に対する授業の評価を記入できる児童が増えてきました。

先生のお読みかたがとても良かったです。
先生のしつもんはよくわかりました。

授業の改善に生かしたこと

授業評価を行うことで、本時の学習に取り組む児童一人一人の気持ちが分かり、次時の学習では、その児童に応じた言葉かけや支援、活動の内容、指名する順番などを工夫するようにしました。

【授業評価を実施してみた】1年生には、自分の学習を振り返ることもまだまだ十分ではありません。だから、私自身、教師の指導に対する評価など到底無理ではないかという思い込みがありました。しかし、質問事項を吟味し、随時、評価方法を説明しながら回を重ねていけばできないことはないということが実感できました。



2 自由記述式による授業評価への試み

翌週、B教諭が第3学年の研究授業を行いました。単元名「分類ということ」という国語の授業です。授業を行うにあたっては、普段の授業よりも意識して「聞き取りやすい早さで丁寧に説明する。」ことに取り組みました。

B教諭は、自分の授業が児童にどのように思われたのか、児童の率直な意見や感想が聞きたくて、授業終了時に「今日の授業はどうでしたか」、「今日の先生の教え方はどうでしたか」という評価（質問）項目で、自由に記述させました。

児童からは、次のような回答が寄せられました。

今日の授業はどうでしたか


- ・いつもよりよい話し合いができたと思います。分類も思い出してみると、いくつも分類をしていたのでおどろきました。
- ・分類というのがよくわかった。ともだちがどんなことを考えているかよくわかった。
- ・同じわけかたでも、くわしくわけたり、かんたんにわけたりしてちがうことがわかった。
- ・グループの発表をきいて、どんなわけ方をしたかよくわかりました。
- ・ふつうでした。

今日の先生の教え方はどうでしたか


- ・先生のはっぴょうがききやすかった。
- ・ていねいでわかりやすかった。
- ・いつもよりものすごくわかりやすかったです。また、おしえてください。
- ・先生がゆっくり言ってくれたのでわかりやすかった。
- ・いつもとかわらなかった。

多くの児童が、「分類することが分かった」、「丁寧に教えてくれて分かりやすかった」と回答しており、授業への理解度、満足度が高いことが分かりました。一方、「教え方はいつもと変わらない」と感じている児童がいることも把握することができました。


授業評価を実施して気付いたこと




B先生、授業評価を行って、何か気付かれたことはありましたか？




自由記述による授業評価を行ったのですが、子どもたちからの感想や励まし（授業の内容が分かったなど）を見て、自分の授業を振り返ることができました。今回の指導について反省する、よい機会になりました。



そうですね。今回は児童の感想による授業評価でしたが、次回実施するときは、どのような点を工夫したいと思いますか？



児童による授業評価を行う際には、いくつかの視点・観点を与えて記述させるとよかったですと思いました。評価（質問）項目ももう少し細かな（教師が知りたい）表現で聞けると、具体的な学習活動や教師の指導について分析できると思いました。



授業評価を行うことで、いろいろなことに気付くことができました。何より児童から学ぶことが多いということに気付かれたことは、今後の子どもたちとの関係づくりに役立つと思います。

3 授業評価を生かして、子どもと共につくる授業

第6学年国語の教材「やまなし」を扱った校内研究授業での出来事です。担任のC教諭は、「やまなし」の12月の部分を模造紙に書き写したものを、授業が始まる少し前に黒板に貼りました。



子どもたちから学んだこと、その1

児童からは「先生すごいね。これいつ書いたの?」、「これ全部、先生が一人で書いたの?」などという質問が沢山出ました。授業が始まる前から児童は興味津々です。「そうよ、がんばってこの前の土曜日に一人で書いたのよ。」後から入ってきた子どもたちからも黒板いっぱい貼り出されている模造紙を見て、「おー、すごい。」という声があがりました。

C教諭は、この教材を用意することで、子どもたちからこんなに反応が返ってくるとは思ってもみませんでした。児童が書いたものを模造紙に書き込み、全員で見ることができるようになりたい、という思いで準備したのもだったからです。このような児童の驚嘆の反応を実感することができ、平日頃からの教材研究の大切さ、重要さに改めて気付きました。これが、この授業で、児童から学んだことの一つ目でした。

子どもたちから学んだこと、その2

本時のねらいは、12月と5月の違いを読み比べることでした。まず、12月を斉読させた後、各自で黙読させました。その後、「やまなし」の12月と5月の表現の違いを比較するのに、明るく楽しいと感じた表現をピンクで、冷たくさびしく怖い感じの表現は青色で、各自が感じたところに線を引かせました。また、なぜそう感じたのか、5月に線を引いた箇所の表現と、12月の線を引いた箇所の表現に何か違いはないかを、ワークシートに書かせました。

すると、子どもたちから、「先生、比べるなら、5月も読み直したほうがいいよ。」



との声があがりました。C教諭は、前時に5月を読ませていたので、改めて読み直さなくても比較ができると思っていました。しかし、確かに5月と12月の表現の違いを読み比べようとするなら、5月も読み直した方がよいと思いました。そこで、子どもたちの意見を生かし、途中から、授業の流し方を修正しました。児童から学んだことの一つ目でした。

子どもたちから学んだこと、その3

読み進めていくうちに、ある班の子どもたちから、ピンクでも青でもない文章がいっぱいあるというつぶやきが聞かれました。「何色がいい？」、「この部分は、ピンクの感じでも青の感じでもないよね。色で表そうとすると何色がいいかな？」、「緑があっているんじゃない。」そんな話し合いがなされていました。深く読み取れば取るほどに、子どもたちの疑問は深まっていきました。授業の最後に、児童による授業評価を実施しました。

児童による授業評価の中に、図1のような記載がありました。その他に、授業評価票には「もっと話し合いの時間を長く取って欲しかった。」「続きを早くやりたい。」と書かれたものもありました。C教諭は、児童一人一人が示した授業中の様子を思い浮かべ

平成28年11月17日(火)曜日 (6)学年 教科名(国語) 氏名	
◇今日の授業について、あてはまるところに○をつけてください。もっとよい授業をするために生かしたいと思います。	
1 授業のねらいが分かった(何を学習するかがよくわかった)。	とても そう思う
2 授業の内容が理解できた。	すこし そう思う
3 考える時間が十分にあった。	あまり 思わない
4 自分の考えを出す場があった。	まったく 思わない
5 先生が自分の考えを引き出そうとしてくれた。	
6 分かったことやできるようになったことがあった。	

みねのびんの月光と、白いやわらかな～のところが、
よ、話し合えない。あ、でも、青でもないの、緑色を作ってほしい。

図1 児童による授業評価

ながら読んでいるうちに、子どもたちから限りない「元気」をもらった思いがしました。次時には、「緑色」の線を使って子どもたちそれぞれの気持ちを表現させることにしました。児童から学んだことの三つ目でした。

意見を書いたグループの児童は、自分たちの意見が取り入れられた思いもあり、前時以上に意欲的に取り組んでいました。

この事例では、教師が子どもたちの声を聴き、授業づくりに役立てることができ、子どもたちも自分の意見が先生に伝わったという思いを授業の中で実感することができました。毎時間、資料などを工夫することは難しくても、児童の声を生かそうとする姿を教師が見せることで、児童の学習意欲が高まることに気付かされました。

「さみしい気持ちがする文」を青色で、「明るく楽しい気持ちがする文」には赤色で線を引かせましたが、赤でも青でもない文があるので、緑色を使いたいという声が出てきました。

このような感想が出てきたときには、なるほど、もっともだと思いました。



児童の意見を取り上げ、授業に生かそうとするとき、その生かそうとする事柄をきちんと子どもたちに伝えることが大切です。子どもたちにとって、授業評価票に意見を書くことは、大変勇気のいることです。教員が、「あなたの意見は、よい授業をおこなうために貴重な意見です。」というメッセージを直接子どもたちに伝えることで、子どもたちはこれまで以上にその授業が好きになり、教師が好きになり、授業に積極的に参加しようという意欲が芽生えてくるものと思われます。

これらの実践を通して、この小学校の教師は、児童による授業評価について、次のような実感を持つようになりました。

児童に授業評価を試みる以前は、児童が客観的に評価できるのか、評価能力に疑問をもっていました。実践してみると、児童の素直な声は、教師も素直に受け入れられるものでした。

「教師批判につながるのでは。」という懸念もあったけれども、批判めいた評価は今のところ全くありません。むしろ、児童と共に授業をつくる雰囲気ができました。

児童たちは、教師が反省するほど、授業をよくなかったとは思っていないことがわかり、励まされました。どの子も、自分なりに「がんばろう」としていることを実感することができ、私自身も気持ちを新たに「がんばろう」と思いました。



児童理解ができ、一人一人へ対応（支援・言葉かけ）する手だてにつながれると思いました。
今まで以上に、児童の立場に立った授業を意識するようになりました。

この事例から学ぶこと！

- 各学年の発達段階に応じて、授業を振り返る方法を再検討し、授業改善を図ったこと。
- 授業評価を疑問視していた教師が、実際に実施することで、子どもたちの声を聞くことができ、授業を見直そうとする意識が高まったこと。
- 授業評価を実施し、子どもたちの意見を取り入れた授業を展開していくことで、児童と教師の信頼関係が増していること。

ワンポイントアドバイス！

- ◇ 授業評価を行う方法としては、評価シート、挙手、面談（聴き取り）、観察などいろいろな方法があります。それぞれによさがあり、これが一番というものはありません。発達段階や評価する目的、時期等に応じて、自分にあう評価方法を工夫していくことが大切です。
- ◇ 授業評価を行う際には、自分の至らなかったことも含めて子どもたちに示し、伝えることが大切です。逆に、それができかどうかで授業評価を行う意義が決まってくると思います。ある面、子どもたちに自分の指導のまずさをさらけ出すことにつながるわけですから勇気が必要です。でも、そうやって教員と子どもたちの人間関係が築かれ、そのことがよい授業づくりの基礎となっていくものと思います。



事例2 カリキュラムづくりに生かす授業評価

【小学校】児童による授業評価を通して、自分の授業の課題を見つけると同時に、その課題から解決策を見出しています。そして、日々の授業実践における教師の工夫と、それに対する子どもの学びについて省察を繰り返すことで、カリキュラムづくりに生かしています。教師自身が子どもから学び続けること、その結果として子どもに根ざしたカリキュラムが作成されています。

この小学校では、教科ごとに調査用紙「学習のようすしらべ」を作成し、学期に一度、学習に対する意欲、授業の進度、教師の指導、教科への満足度等に関する授業評価を行いました。実施にあたっては、児童に「授業をよりよくするために実施すること」を説明しました。また、評価結果を指導に生かせるように記名式にすること、加重負担にならないよう、調査対象の教科を学年で選択するなど工夫して行いました。低学年には平仮名表記を用いて平易な表現にし、必要に応じて担任が補足説明を加えながら実施するなど、児童の発達段階、教科に応じた評価表を作成しての実施でした。

1 マネジメント・サイクルによる授業改善

(1) 第1回の調査(6月下旬)

A教諭が行った、第1回授業評価の結果からは、ア、エ、カの評価結果が、他の評価と比較して低いことが明らかになりました。A教諭はそれらの項目について、改善の重点化を図りました。

学習のようすしらべ [家庭科]6年 組()
このアンケートは、楽しく、よく分かる授業にするために、みなさんの考えをたずねるものです。あてはまる番号に をつけましょう。

ア あなたは家庭科の勉強をどんな気持ちでやりますか。
意欲的(やる気十分)にやる まじめにやる
あまり集中できない 意欲(やる気)がもてない
、 と答えた人はそのわけを書きましょう()

イ 家庭科の学習を生活に生かしていますか。
いつでも生かしてやる ときどき生かしてやる
少ししか生かしていない 生かしていない
、 と答えた人はそのわけを書きましょう()

エ 先生の話し方はどうですか。
言葉がはっきりしていてよくわかる 声が大きくてよくわかる
声が小さくてよくわからない 早口で聞き取れない

オ 黒板の文字の大きさ、書き方がよく見やすい

カ 実技の説明や手本はどうですか。
わかりやすい ていねいである 手本をもっと見たい
ことばがむずかしい

キ 質問に対する先生の答え方はどうですか。
いつもていねいに答えてくれる 内容によっては答えてくれる
後で個人的に答えてくれる 質問に答えてくれない

ク 学習の様子であてはまるものを2つ選んでください。

ケ この学習の満足度はどの程度ですか。

「学習のようすしらべ」の集計
家庭科 6年1組 30人
6/29(木)実施

ア	5人	15人	6人	2人
イ	7人	20人	3人	0人
ウ	22人	3人	5人	0人
エ	6人	15人	8人	1人
オ	14人	12人	4人	0人
カ	9人	11人	6人	2人
キ	25人	2人	2人	1人
ク	18人	7人	3人	2人
ケ	4人	22人	3人	1人

同じ児童

否定的な評価(,)を選んだ児童が多かった項目について改善の重点化を図ることにしました。

第1回の調査後、すぐに改善を図った点

(ア) 否定的な意見が多かった項目の改善

話す速さと大きさ

A教諭は授業中ゆっくりと大きな声で話しているつもりでしたが、家庭科室は普通教室より広く、教室後方の児童には聞き取りにくいことが、「エ 先生の話し方はどうですか。」の質問項目から分かりました。そこで、クラス全体に聞こえているかどうかを確認しながら、授業を進めるようにしました。

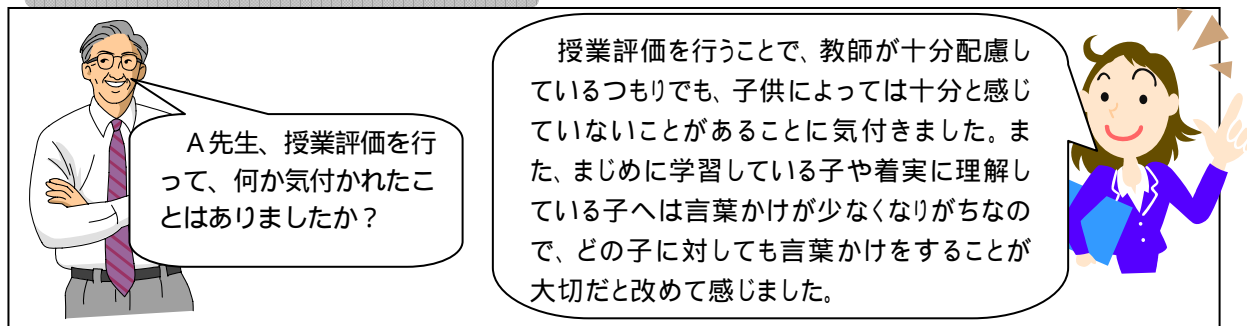
実技の説明や手本

「カ 実技の説明や手本はどうですか。」の質問項目の結果を受けて、実技の説明を教師用台の周りに児童を集めて行い、必要に応じてグループごとに手本を示して説明しました。また、作業の方法が分からなかった児童には、個別に手本を示すように努めました。

(イ) 評価が低かった児童への対応

「キ 質問に対する先生の答え方はどうですか。」と「ケ この学習の満足度はどの程度ですか。」の質問項目に、両方とも低い評価の と回答した児童がいました。この児童は、普段の授業では教師の話をよく聞き、理解力もあるため、A教諭は、何の問題もなく授業に取り組んでいると感じていました。そこで、休み時間に声をかけて訳を聞いてみると、実技にはやや自信がないこと、個別に声をかけてもらうことを望んでいることが分かりました。さっそく次の授業から、よく目を合わせ、声をかける回数を多くしたところ、児童は積極的に発言をするようになりました。

授業評価を実施して気付いたこと



時間をかけて改善を図った点

カリキュラムづくりへの取組

質問項目「ア あなたは家庭科の勉強をどんな気持ちでやりますか。」の授業への取組について否定的な評価をした児童は、自由記述欄に家庭科の学習内容が「あまり役に立たない」、「つまらない」と書いていました。そこで、A教諭は、分かりやすく楽しい授業、生活に役立つ授業を目指すことを課題としました。毎時間、授業のねらいをはっきりと提示して、ていねいに説明するよう心がけました。

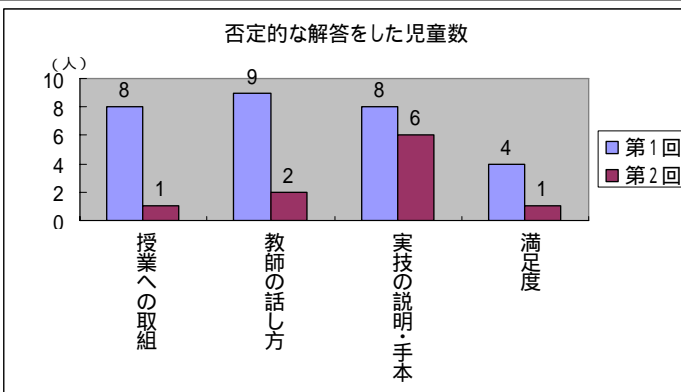
また、「楽しい食事をくふうしよう」の題材では、題材の展開を改善して、「家族のためのオリジナル弁当を作ろう」を学習課題に設定しました。子どもたちは、食べる相手を意識したメニューづくりや盛りつけに工夫を凝らすなど、意欲的に活動

しました。児童一人一人の思いがこもった弁当を写真に撮り、また、実際に家族に食べてもらうようにしました。この活動を通して、第2回「学習のようすしらべ」の結果では、否定的な回答をした子どもたちも、家族とのつながりを感じ、生活に役立つ学習を実感できました。A教諭は、生活に生かせる題材設定をすることが大切だと感じました。

(2) 第2回の調査(10月下旬)


10月の「学習のようすしらべ」では、6月から重点的に改善を図ってきた項目について調べました。教師が改善点を評価する上で尋ねたいことに絞って選択肢を設定しました。結果は以下のとおりでした。

第2回「学習のようすしらべ」の調査結果		6年組 家庭科 10/5(28人)	
ア あなたは家庭科の学習をどんな気持ちで取り組みましたか。			
やる気十分である	6	まじめに取り組む	21
あまり集中できない	1	やる気がもてない	0
エ 先生の話し方はどうですか。			
言葉がはっきりしてよく分かる	7	声が大きくてよく分かる	18
		声が小さくてよく聞かない	0
		早口で聞き取れない	2
その他 小さいときもある 1人			
カ 実技の説明・手本はどうですか。(2つまで選んでよい)			
わかりやすい	14	ていねいである	18
		ことばがむずかしい	2
		説明が長い	4
ク 実習を行ってどうでしたか。			
簡単で役に立つことである	18	簡単だったが役に立たない	0
		やってみるとむずかしかった	6
		簡単すぎて物足りない	1
ケ 全体として、家庭科の授業への満足度はどうですか。			
非常に満足である	3	満足である	17
		どちらでもない	7
		不満である	1




左のグラフは、第1回、第2回の調査において、否定的な回答をした児童数を比較したものです。重点課題として取り組んできた全ての項目において、否定的な回答をした児童数が減少しました。

授業評価を実施して気付いたこと



今回、授業評価をもとに、授業を改善してきましたが、一連の実践で気付いたことはどんなことですか？

第2回の調査では、質問項目に応じた選択肢を設定し、設問ごとに自由記述欄を設けたことで、子どもの要望やつまりがより具体的に分かり、その後の指導や支援に生かすことができました。また、「オリジナル弁当をつくろう」のように、授業評価の結果をカリキュラム作りに生かすと、授業の質が高まり、子どもたちが積極的に取り組めるようになると分かりました。

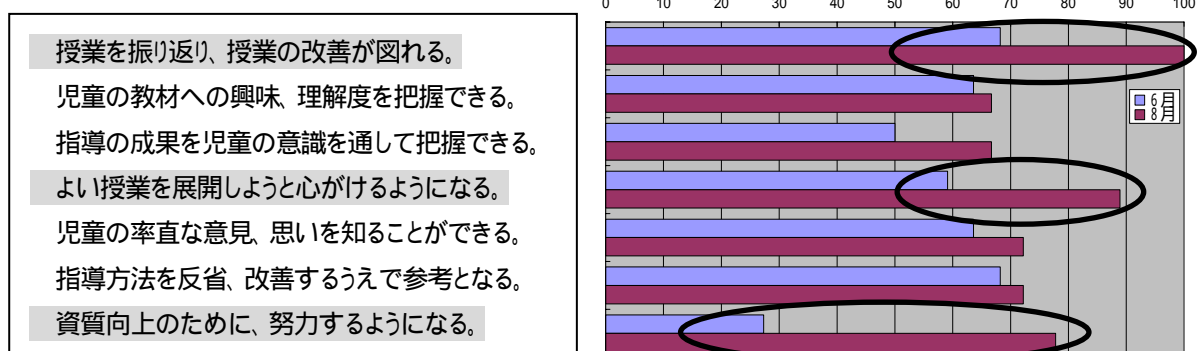


2 児童による授業評価を実施して

この学校では、先生方に「授業評価に関するアンケート」を行いました。アンケート結果からは、第1回目の授業評価実施前（6月）と実施後（8月）では、先生方の授業評価に対する意識が大きく変わったことが分かります。

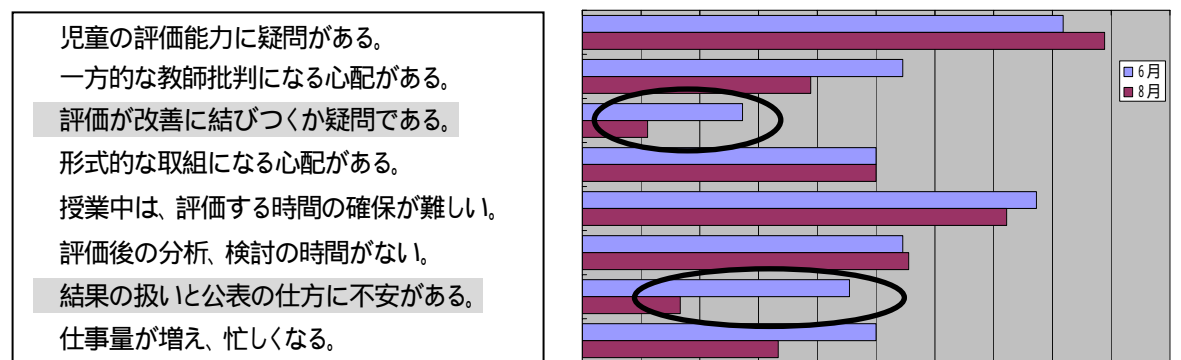
期待される効果

授業評価実施前に比べて、実施後は、「自分自身の資質向上のため努力するようになる」、「児童から見て、授業がどうであったかが分かり、よい授業を展開しようと心がけるようになる」、「自分の授業を振り返り、授業の改善が図れる」と回答した教師が増えました。授業評価を肯定的にとらえる考え方が増えてきたことが分かります。



課題と感じられること・心配されること

の項目については、実施後も多くの教師が懸念していることが分かりました。しかし、とを除く項目では、実施後に心配されることが減っています。特に、「結果の扱いと公表の仕方に不安がある」、「評価が改善に結びつくか疑問である」と回答した教師が大きく減っています。



この事例から学ぶこと！

- 初めての試みでも、全職員が同一歩調で取り組んだこと。
- 子どもからの授業評価を経験することで、授業評価の持つ意義を感じる事ができたこと。
- 子どもの授業評価から自分の授業の課題をとらえる、改善策を見いだしたこと。
- 子どもの声に応え、授業改善に取り組んだこと。

この実践は、P D C Aのマネジメント・サイクルを生かした取組だと考えられますね。もう一度、取組のポイントを下表に示します。



ワンポイントアドバイス！

マネジメントの考えを取り入れた授業評価の進め方

授業改善を図る上で、あなたが重点的に取り組む課題は何ですか？

P プランを立てるために現状を分析します。(Plan)

<p>現状把握</p> <p>授業を振り返る(自己評価を行う) 他者からの評価を取り込みます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員相互による授業評価 ・ 児童生徒による授業評価 	<p>まず、自分の授業を謙虚に振り返ってみましょう。そこから、授業を進める上での課題が見えてきます。これは、誰かに見せるものではありません。自分自身のために行うものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちに記入させる授業評価票をもとに、自己評価票を作成し、チェックします。 ・ 他者に授業を見てもらうことで、自分では気付かなかった良さを教えてもらうこともあれば、自分が良かれと思っていたことが、他者からすればマイナスに映っていることもあることに気がきます。 ・ 子どもが授業をどう受け止めているのか評価してもらうことで、教師の思いとの差異に気付くことができます。自分としてはやっているつもりなのに、子どもはそう思っていないことや、言われてみればそのとおりだというように、新たな気づきがあります。
<p>現状分析</p> <p>目標設定</p> <p>重点課題(目標)を設定する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価して明らかになった改善点、他の教員から指摘された改善点、児童生徒の授業評価から見てきた改善点を整理します。 ・ 自己評価で意識したポイントと子どもの要求とが合致した項目を重点課題とします。 ・ 2～3項目の重点課題を設定します。たくさんの課題が見つかるかもしれませんが、それらを一度に全部解決していこうとするのは無理があります。優先順位を付けて、重点的に取り組んでいくことを決めていきます。

D 日々の授業の中で意識して取り組んでいきます。(Do)

<p>実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点的に取り組むこと(改善すること)を児童生徒に伝え、できることから改善していきます。
------------------	---

C 評価をします。(Check)

<p>評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点的に取り組んだ事柄の成果が上がっているのかどうか、子どもからの授業評価を行います。しかし、子どもによる授業評価は、毎時間行うというわけにはいきません。常日頃の振り返りはもちろん大切ですが、単元ごとや学期に一回などと決めて行うといいでしょう。
------------------	--

A 改善していきます。(Action)

<p>改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状把握時に行った、子どもからの授業評価と比較し、継続して取り組む点、新たに取り組む点を明確にし、実践していきます。
------------------	--

事例3 生徒の視点で取り組んだ授業改善への挑戦

【中学校】「分かる授業」、「達成感のある授業」の創造を掲げ、校内での授業公開を中心とした一人一授業研究会、生徒による学習全般の自己評価と授業の分かりやすさを生徒に判定させる試みを始めました。

授業改善を図るための教師たちの「挑戦」がスタートしました。

この中学校では、ここ数年間、生徒会の学習委員会が中心となり、「学習に関するアンケート」に取り組んできました。今年度は、5月下旬にホームルームの時間を利用し、「学習への取組」、「家庭学習」に関する自己評価と、授業に対する「思い」、「注文」を生徒たちがアンケートに書き込みました。自己評価に関するアンケート項目は、学習委員会の生徒が作成し、集計も委員が担当しています。アンケート項目の中には、「クラスの人と協力し合って、学習できるのでとても楽しい」、「進むのが早い教材があるので、もう少しゆっくりと授業を進めてほしい」など、先生に対する感想や注文を具体的に書く欄も設けられています。

1 「学習に関するアンケート」が授業改善につながらない理由

アンケートからは、「よい評価」も多い反面、無責任で、辛らつな感想や、教師の人間性に関わるような改善に生かされない要望等も出てきました。学校の全体的な傾向をと

学習に関するアンケート		(抜粋)
学習への取組		
チャイム着席		
ア	ほとんどできている	イ ときどきできない
		ウ できないことが多い
忘れ物		
ア	ほとんどしない	イ たまにする
		ウ よくする(多い)
授業中の挙手		
分からないところ		
家庭学習		
平日の平均学習時間(塾の時間は含めない)		
ア	ほとんどしない	イ 30分以内
		ウ 30分~1時間
エ	1~1.5時間	オ 1.5時間~2時間
		カ 2~2.5時間
カ	2.5~3時間	キ 3時間以上
塾(学習塾)に通っていますか		
ア	通っている(教科:	回数 回/週)
イ	通っていない	ウ その他()
家庭学習上の悩み		
ア	やる気がでない	イ 何をやらしたらいいのかわからない
ウ	根気がなく、すぐあきら	エ 難しくてわからない教材がある
オ	家の人が勉強に協力的でない	オ 部活などで疲れてすぐ眠くなる
授業について、日頃から感じていること、要望等があれば書いてください。		

らえるために行われるこのアンケートは、生徒の要望や感想を、教師の個人名を載せない形式にまとめ、全職員に配付します。教師の個人名が省かれてまとめられた結果からは、どの教師のどの授業に改善点があるのか、教師が自分のこととして振り返る材料にはならず、教師一人一人の授業改善につながりにくいものでした。何度となく、授業に対する「要望」、「意見」を書いてきた生徒も、自分たちの「思い」が伝わらないアンケートに、意義を感じなくなっていました。

この事例で、アンケートが授業改善につながらないと、教師、生徒の双方とも感じている原因には、次の点が考えられます。

- ・ 教師が自分の授業について、生徒から直接聞くアンケートではないこと。
- ・ 教師から「よい授業を進めていくためのアンケートである」という説明がないこと。
- ・ 生徒は、教師と共によい授業を目指すというイメージがもてないまま、アンケートを実施していること。
- ・ 教師への要望事項に対して、教師の個人名を出さない形式で集計するため、教師は生徒からの要望事項を自分のこととしてとらえることができない。そのため、評価が指導の改善に生かされないでいること。
- ・ 自分が出した要望によって、教員との人間関係が悪くなるのではないかという生徒の危惧があり、それらの配慮から無記名式の意見聴取としたこと。

2 新たな授業評価への挑戦

これまで実施してきたアンケートは、学校全体としての授業を評価することにはなっていました。しかし、教員個々の授業に対する評価にはなっていませんでした。これまでのアンケート結果を踏まえ、授業改善を進めるためには、それぞれの教師の授業を直接評価することで、授業の特徴や改善すべき点が明らかになり、評価が改善に生かされると考えました。

7月、全教員に対し、「生徒による授業評価に関する意識調査」を行いました。アンケートからは、「生徒が客観的に評価できるか疑問である」、「一方的な教師批判になる心配がある」という意見が噴出しました。しかし、A教諭の呼びかけに応じ、若手の教師3人が、自分の担当する教科で授業評価に挑戦しました。これまで生徒を評価する立場であった教師が、反対に自分の授業について生徒に評価してもらうことは、この学校の教員にとってまさに「挑戦」でした。

最初にA教諭が授業評価を実施しました。よりよい授業を目指したアンケートであることを生徒に示し、「1学期を振り返って」と題し、【学習への自己評価】、【先生への通信簿】の二つの観点で授業評価を行いました。

調査の結果、次頁の集計表に示すように、各項目とも「」「」との評価が大半を占め、自分の指導に自信を

それぞれの教科で、生徒による授業評価を行ってみませんか。



1 学期を振り返って (抜粋)

このアンケートは、授業をよりよいものにするために皆さんに書いてもらうものです。感じたことを率直に書いてください。

【学習への自己評価】

チャイムと同時に授業に入る態勢に入っていますか。

授業の用具は忘れず準備できましたか。

ワークは、計画的に進め、きちんと提出できましたか。

：

【先生への通信簿】

先生の声の大きさ、話し方は聞き取りやすかったですか。

黒板の文字は見やすかったですか。

先生の説明の仕方はどうですか。

授業の進度(進み方)はどうでしたか。

早い 遅い

先生の授業は、興味や関心の持てる授業でしたか。

先生の授業は、力のつく授業でしたか。

さらによりよい授業を行うために、先生へのアドバイスがあったら書いてください。

もつことができました。

調査人数 3年全クラス 185人

その一方、授業の進度に関する点が、他の評価項目と比較して低いことが明らかになりました。自由記述にも、「試験の範囲を終了するのが試験直前なので、もう少し余裕をもって終了してほしい」との意見がありました。


調査項目			・速	×・遅
声の大きさ、話し方	137	43	3	0
黒板の文字	112	66	9	1
説明の仕方	118	58	7	1
授業の進度	75	90	12	8
授業への興味・関心	97	74	9	5
力がつく授業	109	71	4	1

また、「黒板の文字」「説明の仕方」「力がつく授業」のいずれの項目にも「×」を付けた生徒がただ一人いました。その生徒は、2学期に入っても相変わらず学習にまったく取り組めないでいました。そこで、授業評価に書かれたことについて、放課後、思い切って生徒に尋ねてみました。その生徒からは、先生が生徒の理解度を確認しないで授業を進めてしまうことや、他の生徒は分かっても自分には分からないことに対して適切な指導をしてくれないことへの不満などを聞かされました。

授業の改善に生かしたこと

- 1 テスト勉強に余裕をもって取り組めるように、授業にメリハリを付け、進度に気を付けるよう心がけました。
- 2 配慮生徒に対し、机間指導の際に声を掛ける回数を多くし、個別支援を心がけました。

このように、話し合いを通して教師に抱いていた生徒の「思い」を聞きだし、声掛けの回数を多くしたところ、生徒のその後の授業態度に改善が見られました。その生徒は、どちらかという学力が低いことから、A教諭はこの生徒の評価能力に疑問を感じていました。しかし、記述した内容は、その生徒なりに感じた「正しい評価」であることが分かりました。A教諭は、この生徒には客観的な評価は難しいと自分が思いこんでいたことにも気付かされました。



生徒による評価には、楽しく学びたい、分かる授業をしてほしいという生徒の切なる願いが込められていることを改めて感じることができました。

英語科のB教諭は、声の大きさや板書の仕方、授業での重要ポイントの押さえなど、当たり前にはできていると思っていたことができていることに気付かされました。B教諭へのアンケートの回答には、「少し早口で、たまに聞き取れない」、「本文を全員で音読練習した後、代表何人かで読ませてほしい」といった声が寄せられました。A教諭を含めた4人の教師は、書き込まれた生徒の「注文」を参考にそれぞれに自分の授業を振り返り、改善策をレポートにまとめました。そして、評価の生かし方などについて検討会をもち、授業の改善につなげる努力を続けました。

C教諭は、夏季休業前に実施した授業評価の結果を、2学期当初にクラスに公開しました。また、生徒の要望を受けて、これから意識的に改善していく点を生徒に伝えました。生徒も気軽に注文を言える雰囲気が出てありがたいと話していました。その後は、互いにより授業にしようという意識が、生徒と教師の双方に高まっています。4人の教師は、生徒にとってよい授業を展開することが最終的に信頼される教師、信頼される学校につながると信じ、子どもたちとの対話を続けています。

この事例から学ぶこと！

- 先導する(核となる)教員が自ら率先して授業評価を行い、そのよさを実感できたこと。
- 授業について校内の同僚同士で話し合い、実践を見つめ直すことができたこと。
- 授業評価の実施で気付いた「気になる生徒」に声をかけ、その生徒の「思い」を聴くことで、生徒との信頼関係の糸口を探りあてることができたこと。



「生徒や保護者による授業評価をやってみましょう。」と呼びかけても、生徒たちや保護者から評価されると考えると、即座に実践するのは、なかなか難しいと思います。アンケートの冒頭にあるように、お互いに、よりよい授業をつくるためにアンケートをとるということを、教師と生徒双方が理解し合うことが大切です。

若い先生のパワーや生徒のためによりよい授業を行いたいという思いを、経験豊富な教員が認めて育てていく環境が、互いの授業力向上につながってゆくのだと思います。

下の表は、教員用授業評価(自己評価)と同一項目の児童生徒による授業評価の一例です。自己評価と、児童生徒による授業評価を実施することで、各自の授業の改善点を把握することができます。こうして、重点的に取り組む課題(目標)を設定しましょう。

教員用授業評価(自己評価)の例

4 よくしている 3時々している 2あまりしていない 1ほとんどしていない

	番号	評価項目	自己評価			
指導技術	1	はっきりと、聞き取れるように話している。	4	3	2	1
	2	丁寧に、見やすい大きさに文字を書いている。	4	3	2	1
	3	板書や掲示物は、生徒が学習内容を理解するのに役立っている。	4	3	2	1
	4	子どもが話を聞く態度が整ってから、指示するようにしている。	4	3	2	1
	5	丁寧に分かりやすい説明や発問、指示をしている。	4	3	2	1
	6	考える時間や活動する時間を十分とっている。	4	3	2	1
	7	お互いの考えを比較できるよう、子どもの意見や考えを板書したり掲示したりしている。	4	3	2	1

児童生徒による授業評価の例

4 よくしている 3時々している 2あまりしていない 1ほとんどしていない

番号	聞きたいこと	評価			
1	先生は、はっきりと、聞き取れるように話している。	4	3	2	1
2	先生は、ていねいに見やすい大きさに文字を書いている。	4	3	2	1
3	先生が黒板に書いたことや黒板にはったものは、学習内容を理解するのに役立つ。	4	3	2	1
4	先生は、みんなの話を聞く態度が整ってから、指示をしている。	4	3	2	1
5	先生の授業中の説明や問いかけはていねいで分かりやすい。	4	3	2	1
6	考えたり活動したりする時間がじゅうぶんにある。	4	3	2	1
7	先生は私たちの意見や考えを黒板に書いたり、紙に書いてはったりしてくれる。	4	3	2	1

事例4 授業評価によって明らかになった改善の視点

【中学校】生徒や保護者による授業評価を初めて実施したところ、それまでは漠然としか把握できなかった生徒の学習状況や、教師の指導に対する生徒の反応などが明らかになりました。一方で、評価票や質問項目についての改善点も明らかになりました。これをもとに、評価票の様式の改善や、学校課題による視点を明確に意識した研究授業及び授業研究などの取組みに、教科の枠を超えて取り組んでいます。

1 生徒による授業評価と評価票の改善

6月に開いた校内研修では、「学力向上」のために、「教師の授業力の向上」、「授業以外での取組の充実」の二つの課題を挙げ、それぞれの具体的な取組について話し合いました。その結果、「生徒による授業評価票」を作成し、校内研究授業の際に授業評価を実施することになりました。

多くの教員が、授業評価を「やってみたい」という前向きな姿勢を示し、「これからは、生徒の意見を聞きながら授業づくりをしていくことが大切である」という共通の認識をもって実施しました。

(1) 実施の方法

- ・ 時期...1 学期末と研究授業終了時
- ・ 匿名によるアンケート方式。後に記名でも匿名でもよいこととした。
- ・ 趣旨の説明...初めての実施時、以下の趣旨を説明し、評価項目を一つ一つ読み上げながら行った。

授業をよりよいものに、生徒と教師とともに作っていくために実施すること。 率直に書いてほしいこと。
マイナス評価をしたとしても、成績に影響しないこと。 嫌なことを書いて悪いと思わず書いてほしいこと。

(2) 評価表の様式

次の図1は、7月に使用した最初の評価票です。

生徒による授業評価票(例)

図1

授業についての意見を聞かせてください
このアンケートは、授業をよりよいものにするために皆さんに書いていただくものです。授業を振り返り、感じたことを率直に書いてください。 ()学年 教科()男女 平成18年()月()日

1 この授業に取り組むあなたの姿勢はどうか。
意欲的に参加している まじめに参加している ← あまり集中できない やる気もてない
または と答えた人は、その理由を書いてください。()

2 この教科に関して家庭でのあなたの学習状況はどうか。
予習復習などをきちんとしている まあまあしている
たまにはしている ← ほとんどしていない

8 一人一人への指導はどうか。
分からない時に教えてくれる ← いろいろな友だちの考えを大切にしている
先生の言葉でやる気がアップした 意見や質問が言いやすい
その他()

9 全体としてこの授業の満足度はどの程度ですか。
非常に満足である 満足である ← どちらでもない
やや不満である 非常に不満である の理由()

10 授業に対する要望があれば書いてください。授業に対する要望があれば書いてください。

これにより、それまでは漠然としか把握できなかった、生徒の学習への取組の様子や、教師の指導が生徒にどのように受け取られているかなど、様々な実態がある程度把握できました。

一方で、結果を分析する際に、この評価票では、生徒が選んだ数字と選択肢の文言を逐一照合しなければならず、煩雑で不都合であると分かりました。授業評価を実施する際の課題の一つに、「評価時間の確保」がありましたが、結果の分析に時間を要したという点で、回答の記入方法を改善する必要があることが分かりました。また、この中学校では、学校課題として、「確かな学力」、「個に応じた指導」、「指導と評価の一体化」の三つを掲げて取り組んでいます。この中で、「個に応じた指導」に関する質問項目（「8 一人一人への指導はどうですか。」）では、複数の選択肢の中から一つしか選べないため、それぞれの選択肢に関する状況が曖昧なままになってしまいました。そこで、9月に使用した評価票では、図2のように数値を で囲む様式にして、評価結果を視覚的に判別しやすくするとともに、「個に応じた指導」に関する質問項目を細分化して、より具体的な状況を把握できるようにしました。

生徒による授業評価票（例）

図2

授業についての意見を聞かせてください		(抜粋)			
このアンケートは、授業をよりよいものにするために皆さんに書いていただくものです。授業を振り返り、感じたことを率直に書いてください。					
(3) 学年 教科(国語) 男女 平成18年(9)月()日					
[4 とてもよい 3 少しよい 2 あまりよくない 1 よくない]					
数字を で囲み、()内には、その内容について具体的に書いてください。					
1	この授業に取り組むあなたの姿勢はどうですか。 (先生の話をよく聞くことができました。)	④	3	2	1
2	この教科に関して家庭でのあなたの学習状況はどうですか。 ()	4	③	2	1
8	分からない時に教えてくれますか。 (ヒントを出してくれて、考えさせてくれるところがよいです。)	④	3	2	1
9	いろいろな友だちの考えを大切にしていますか。 (自分と違う考えが出ると参考になります。)	4	③	2	1
10	先生の言葉でやる気がアップすることがありますか。 (難しいことでも勉強してみようと思います。)	④	3	2	1
11	意見や質問が言いやすいですか。 (質問するときも恥ずかしくありません。)	④	3	2	1
12	全体としてこの授業の満足度はどの程度ですか。 (分かりやすくとてもよいです。古典が好きになりました。)	④	3	2	1
13	授業に対する要望があれば書いてください。 古典の宿題のプリントや復習に役立つプリントがあると助かります。				
どうもありがとう					

生徒による授業評価(アンケート)から、気付かなかった自らの課題が明らかになりました。課題として指摘された内容については、付箋を貼るなどして忘れないようにしたり、生徒に還元できることは、さっそく授業で返したりするように心がけました。

ただ、「その時は心がけたが、普段の授業スタイルにいつの間にか戻ってしまった。」というような反省も聞かれました。

授業の改善に生かしたこと

「集中できない」という回答した生徒には、頻繁に声をかけ、具体物を準備するよう心がけましたよ。

課題に挙げられた項目については、同僚の先生にそのやり方を聞きました。とても参考になりました。

私は、机間指導の頻度を多くしたり、問題演習での個別指導を増やしたりしました。

板書が分かりづらいと回答した生徒が多かったので、板書計画を事前にノートしておくようにしました。そのため、板書の無駄がなくなったと思います。

授業評価を実施して

教師が、「生徒とともに授業づくりを進めていくために、あなたの声を聞かせてください。」という姿勢で取り組もうとする授業評価の趣旨を、生徒もよく理解し、率直に記述してくれたのだと思います。それを実感できた教師も、生徒のために何をすべきか考え、改善に取り組んでいけたのですね。生徒も、自分たちが書いたことを教師が生かして、授業を進めてくれているという実感をもつことができているのですね。



ワンポイントアドバイス！

◇ 授業評価で気付いたことでも、「当座は心がけたが、やがて普段の授業スタイルに戻ってしまった。」という反省も聞かれました。その際は、「先生、前の教え方に戻っています。」と、子どもたちからいつでも指摘ができ、それに対し教師が、「ごめんね、つい重要ポイントだと教えることに夢中になっちゃって。また、気付いたら言ってね。」というように、教師と生徒が授業中にでも言い合える人間関係づくりのよい機会としたいですね。

2 保護者による授業評価と評価票の改善

この中学校では、授業参観の際に保護者による授業評価にも取り組んでいます。授業の感想を記入する欄を設けた用紙を保護者に配付し、授業後に自由に記述してもらうようにしました。当初、この試みでは、評価票から直接得られた成果はありませんでしたが、評価票以外にも保護者の声を授業に反映するヒントが得られたり、評価方法の改善の視点が得られたりするなどの副次的な成果がありました。

1学期の授業参観時、保護者からの授業についての意見を聞く感想用紙には、何の記述もありませんでした。そこで、保護者による授業評価の実施について、実施上の問題点について担当で話し合いました。



さらに、どのような点を改善していけば、保護者からも授業改善のヒントをもらえるかということについて、検討しました。



検討した結果を生かして、2学期の保護者会には、授業者と担当教科、授業のポイントを記載した文書を事前に保護者に配付しました。その文書には、「子どもたちのため、授業をよりよくするために、参観された授業について皆さんのご意見をお聞かせください。」と書かれていました。

3 生徒や保護者による授業評価を実施して

また、生徒や保護者による授業評価を初めて実施し、試行錯誤しながら実践を重ねたA教諭は、次のように述べています。「初めての試みなので、当然うまくいくことばかりではありませんでしたが、自分の授業を子どもたちがどのように感じているのかを、ある程度数値化して客観的にとらえることができました。また、当初考えていた以上に、生徒からよい評価と温かいメッセージを受け取り、生徒から元気と勇気をもらった思いです。」

この中学校の教師が、生徒による授業評価を実施して感じたことや、今後継続していく際に留意しなければならないと感じた点を、以下に示します。

ティーム・ティーチングで個への対応を十分しているつもりであったが、実際は「遅れがちな生徒への対応」が中心で、「十分満足」レベルの生徒に対しては配慮していないことに気付かされた。「もっと早く進めてほしい」、「手を挙げて発表できる雰囲気してほしい」など、さらに個への対応が必要だと分かった。

教師が謙虚な姿勢を示すことで、自分自身も向上でき、生徒も信頼してくれるようになるのではないかと思った。

- × 何度も行うことでマンネリ化してしまう。いつどのくらい行ったら効果的か。また、変化が分かるにはある程度の時間が必要。
- × 生徒への返し方が課題。例えば、「授業を進めるスピード」「分かりやすさ」など、個人差のあるものをどう改善していくか。評価させたからには、改善していかなければ、単なる実態の把握に終わってしまう。
- ◆ マンネリ化しないことが大切。生徒からは「評価することは、生徒にとっても教師にとってもよいことだと思う」という意見があった。その思いを大切にしていくためにも、教師、生徒ともにマンネリ化しないような方法・工夫が大切である。
- ◆ 一人では継続して実施していくには心細い。互いに話し合ったり励まし合ったりできる場や教師間の人間関係を構築していくことが、継続につながる。

は、授業評価の効果・期待感

×は、授業評価を実施するうえで課題と感ずること

は、実施するうえで留意しなければならないこと

この事例から学ぶこと！

- 生徒による授業評価を始めるにあたって、授業評価の趣旨をよく生徒に説明して実施したこと。
- 授業評価を進めるにあたって、よりよい授業評価の在り方について常に話し合い、改善していったこと。
- 保護者に授業への興味・関心をもってもらうことと、保護者からの意見を聞くことを通して、自分の授業を見直そうとする試みを始めたこと。

生徒や保護者からの授業評価を行うことに対して、教師は不安があると思います。また、評価が低い項目について明らかにし、生徒に今後の改善点を説明することは、教師にとってかなり勇気のいることですし、今まであまり行われてこなかったと思います。だからこそ、やる意義があるのだということを、実践を通して理解していくことができたことが何よりの成果です。



事例5 学校評価に授業評価を位置付けた取組

【中学校】教員の授業力向上を図る一つの方策として、学校評価に授業評価を位置付けて実施しています。教員、生徒、保護者等による授業評価を行い、P D C Aのサイクルによる授業改善に取り組んでいます。評価結果と改善策については、定期的に発行する「学校評価だより」などで周知を図っています。評価項目の中には、教員と他の評価者の結果が大きく異なるものもあり、授業評価の実施が授業の振り返りのよい機会となっています。

この中学校では、「地域の信頼に応える学校づくり」をキーワードとして、教員自身の自己評価だけでなく、外部評価を活用することによって、授業力の向上に努めています。次の図1は、年間の授業評価の流れを示したものです。

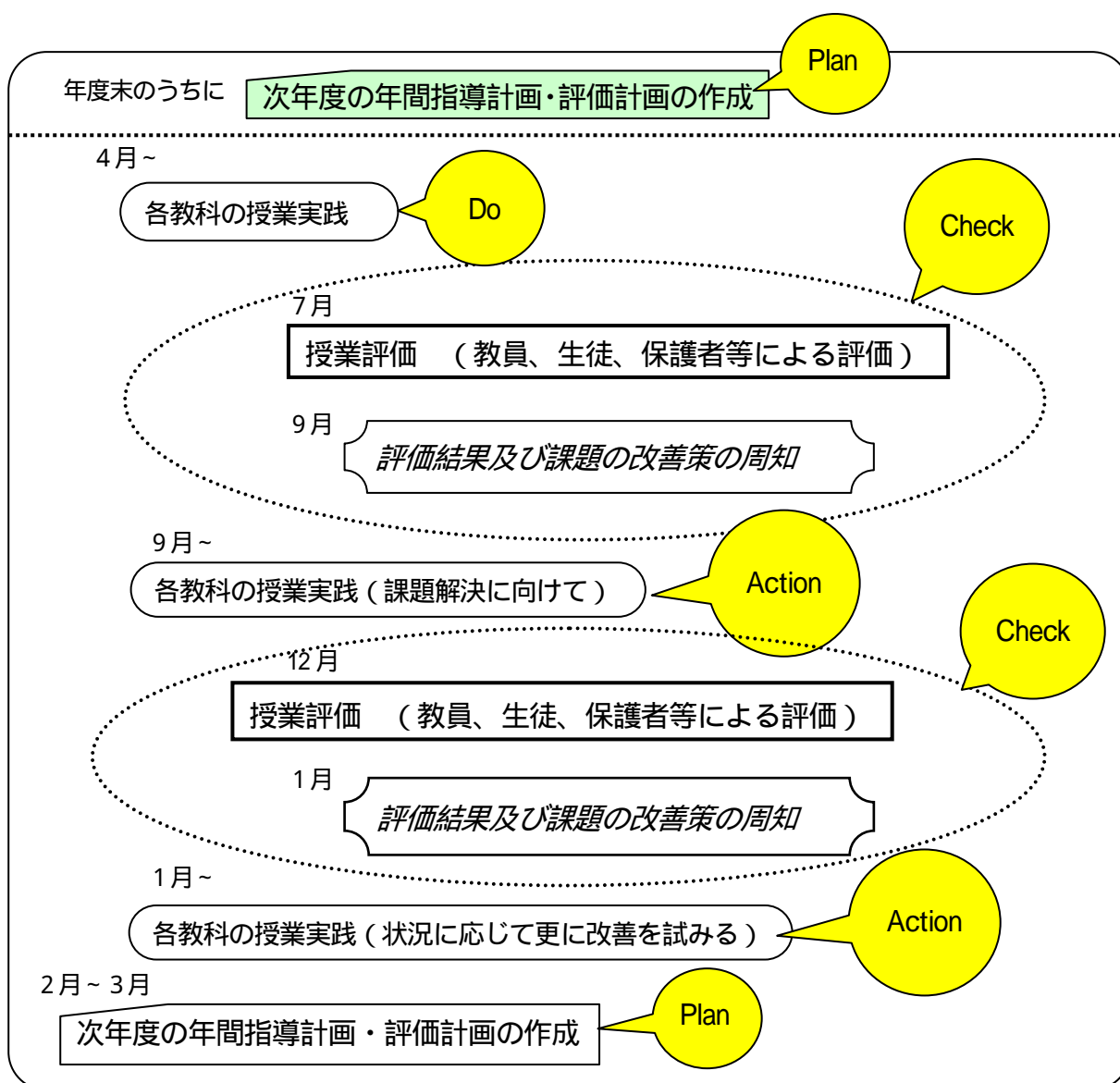


図1 授業評価の流れ

1 授業評価の実施

図1にあるように、この中学校では、年間2回の授業評価を実施しています。

「授業評価」は、1学期の授業について振り返るために7月に実施し、その集計・分析・課題把握を夏季休業中に行います。その後、9～10月の職員会議で2学期の授業改善に向けた課題解決のための重点目標や方策について話し合い、その結果を、「学校評価便り」で生徒や保護者に知らせます。

2学期には、「授業評価」の結果を踏まえて、各教科で改善を図りながら授業を行い、12月には「授業評価」を実施してそれまでの授業を振り返ります。

このように、年間2回の授業評価を取り入れることによって、PDCAの大きな流れの中で、年間を通して授業改善を図っています。

年間を通してPDCAのサイクルで授業評価を行うから、授業の改善につながるわ！



2 授業評価票の作成

次に示すのは、教師用、生徒用、保護者用の3種類の授業評価票の例です。評価項目については、同じ内容の項目であっても、評価者に応じた分かりやすい表現にします。また、評価については、肯定的な回答と否定的な回答の割合が分かるように、A～Dの4段階評価とします。

(1) 教師用授業評価票(例)

授業評価票 <教師の自己評価用>

次の評価項目について、A～Dのうち、該当するものを で囲んでください。

A(そう思う) B(ややそう思う) C(あまりそう思わない) D(そう思わない)

1	一人一人の学習達成度の把握に努め、基礎的・基本的な学習内容の定着に努めている。	A B C D
2	生徒の実態に応じて、個別指導やグループ学習、TTなど、個に応じた指導方法の工夫に努めている。	A B C D
3	生徒の学習に対する興味・関心・意欲を高めるため、教材・教具の工夫や開発に努めている。	A B C D
4	生徒一人一人に目配りをし、意見を述べたり質問をしたりしやすい雰囲気づくりに努めている。	A B C D

(2) 生徒用授業評価票(例)

授業評価票 <生徒用>

これは、毎日の授業をよりよいものにするために行うアンケートです。みなさんの率直な意見を聞かせてください。次の各質問について、A(そう思う)、B(ややそう思う)、C(あまりそう思わない)、D(そう思わない)のうち、該当するものを で囲んでください。

1	先生の説明は分かりやすく、理解しやすい。	A	B	C	D
2	先生は、授業中、分からない所をていねいに教えてくれる。	A	B	C	D
3	授業中の活動(学習)がおもしろいので、興味がもてる。	A	B	C	D
4	授業中、意見を述べたり質問をしたりしやすい。	A	B	C	D

(3) 保護者用授業評価票(例)

授業評価票 <保護者用>

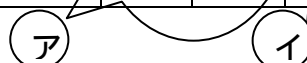
これは、現在の 中の授業について、保護者のみなさんからご意見をいただき、今後の授業改善に役立てるためのアンケートです。次の各質問について、A(そう思う)、B(ややそう思う)、C(あまりそう思わない)、D(そう思わない)のうち、該当するものを で囲んでください。

1	教師は、生徒一人一人をよく理解して、分かりやすい授業を行っている。	A	B	C	D
2	生徒の実態に応じて、指導形態(個、ペア、グループ、複数の教師による協同授業など)を工夫し、個に応じた指導を行っている。	A	B	C	D
3	生徒の学習に対する興味・関心・意欲を高めるための教材・教具の工夫や開発を行っている。	A	B	C	D
4	授業中、意見を述べたり質問をしたりしやすい雰囲気になっている。	A	B	C	D

3 授業評価の生かし方

生徒や保護者に授業評価をしてもらうことで、様々な気づきを得ることができます。例えば、教員の評価結果と生徒や保護者の評価結果を比較してみると、大きく異なることがあります。その原因等を分析することで、後の指導に生かすことができます。次の表は、評価結果の一部です。ここからどんなことが分かり、この結果をどのように生かすことができるのでしょうか。

評価者	評価項目	A	B	C	D
教員	生徒が「分かる授業」の実践を目指して、授業の工夫・改善に努めている。	25.8%	66.1%	1.6%	0.0%
生徒	授業は分かりやすく、理解しやすい。	23.1%	50.6%	20.9%	3.0%
保護者	教師は、生徒一人一人をよく理解して、分かりやすい授業を行っている。	9.2%	51.5%	22.2%	2.0%



表中の質問は、いずれも教師の「分かる授業」の実践状況について尋ねたものです。それぞれの結果をみると、次のような評価者間のずれがあることが分かります。

- ア 約9割の教員が肯定的な回答（A「そう思う」+B「ややそう思う」）をしているが、生徒では約7割、保護者では約6割となっている。
- イ 否定的な回答（B「あまりそう思わない」+C「そう思わない」）をしている教員はほとんどいないが、生徒や保護者では約2割となっている。

このように、授業評価を行うことで、教員、生徒、保護者の意識のずれを認識することができます。実は、このことが授業評価を行うねらいの一つでもあるのです。

「分かる授業」をしていると思うんだけど・・・。
生徒や保護者との意識のずれは、ということなのだろう？



このような意識のずれがみられたときこそ、その原因等を分析・考察することが大切です。この事例では、教員が謙虚に自分の授業を振り返り、改善を図る必要があるかも知れません。その際、生徒の率直な意見を聞いてみるのもよいでしょう。一方、保護者の評価結果については、実際に授業を見る機会や学校で行われている授業についての情報などが不足していることが原因とも考えられます。



これからも、「分かる授業」を目指してがんばるぞ！

そこで、この中学校では次のような取組を始めました。

「授業参観」及び「自由授業参観」の実施

保護者に授業の様子をもっと知ってもらうために、年3回の授業参観、2日間の自由授業参観を実施しました。特に、自由授業参観の2日間については、保護者が自由に授業を参観できるようにし、参観後の感想をもらうようにしました。

「授業評価便り」による情報発信と意見聴取

「授業評価便り」に、各教科でどのような授業が行われているか、授業評価からみえた課題解決のためにどのように取り組んでいくかなど、積極的に情報を発信するようにしました。さらに、その便りにコメント欄を設け、保護者がいつでも意見を学校に伝えることができるようにしました。

このように、授業評価は、教員と生徒、保護者とのコミュニケーションを図るきっかけにもなります。そして、取組を継続していくことが「地域の信頼に応える学校づくり」につながっていきます。

この事例から学ぶこと！

- 学校評価に授業評価を位置付け、1年間のPDCAのサイクルを確立していること。
- 生徒や保護者による授業評価を実施していること。
- 評価結果から明らかになった課題の解決に向けて、具体的な方策を立て、実践していること。

ワンポイントアドバイス！

◇ 授業評価には、日常的に行う評価と総括的に行う評価とがあります。日常的な授業評価には、「児童生徒による授業評価」、「教員相互による授業評価」、「保護者、地域住民、学校評議員等による授業評価」が考えられます。

表にまとめると次のようになります。

種類	評価者	評価時期	評価内容等	
日常的な授業評価	児童生徒及び授業者による授業評価	授業者 児童生徒	単元(題材)の中での重点時間 単元(題材)終了後	具体的な手立ての有効性
	教員相互による授業評価	他の教員 外部講師	研究授業及び普通の授業	学校としての改善策の有効性
	保護者、地域住民、学校評議員による評価	保護者 地域住民 学校評議員	年数回の公開授業や授業参観	授業の重点目標 授業における児童生徒の様子等
総括的な授業評価	教員 児童生徒	年2回程度(夏季休業前、12月等)	授業の重点目標 授業全般にわたって	

授業評価を学校評価に位置付け、総括的に行う際には、授業評価の結果をすべて数値や統計的な処理をして公表することに力を注ぐよりも、この学校のように、数値から明らかになったよさや課題についてコメントし、検討したことや具体的な改善策を生徒や保護者等に返すことが大切です。

「授業評価」を生かした授業の改善は、できることから

「人間性を改善する」などということは、要求されても難しいことですが、「聞き取りやすい大きさの声で話す」ということなら、心がけ次第ですぐにでも改善できます。要求レベルの低いことでも、まずはできることから改善することが大切です。

そして、改善しようとすることを子どもたちや保護者にきちんと伝えることも大切です。「先生が自分の言ったことを聞いてくれた、取り入れてくれた」、「自分たちのために、先生がいい授業をしようとしてくれている」と子どもたち一人一人が感じることができることが何よりも大切なのです。授業は、「教師と児童生徒とでつくっていくもの」という意識を教師が持つことが大切です。授業評価を行っても、何も変わらないというのでは、子どもたちの理解は得られません。授業評価によって、授業が改善されることにより、子どもたちからの信頼が得られものだと思います。

